

「飲酒運転撲滅」担い手ピンチ

飲食店休業で2割が廃業

「思いがけず、飲みに行くことに。でも、車で来ちゃってるし...」。そんなとき、頼りになるのが運転代行です。電話一本で2人1組の運転手が駆け付け、1人が客の車を運転し、もう1人が同伴車で追走。目的地に到着した後、2人が同伴車で営業所に戻ります。1950年代、黒部ダム建設作業員のために、富山市内の飲食店が始めたサービスが原型といわれます(諸説あり)。酒類を提供する飲食店とは切っても切れない運転代行は、コロナ禍で度重なる飲食店への休業・時短要請などで大きな痛手を受けました。「飲酒運転撲滅の担い手として、社会的役割も大きい運転代行の現状と今後を、公益社団法人全国運転代行協会の金澤毅専務理事に聞きました。

公益社団法人
全国運転代行協会専務理事 金澤 毅さんに聞く



金澤 毅専務理事

運転代行業者数は、飲酒運転に対する社会の目が厳しくなる中で、着実に増えてきました(下のグラフ)。公共交通機関が発達している都市部より、クルマ社会の地方都市の方が、業者数が多いことも特徴です(下の表)。ところが、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置による飲食店への休業・時短要請の影響で、多くの運転代行業者が窮地に立たされています。警察庁が公表している最新の業者数はコロナ前のもので、8487者(2019年時点)ですが、コロナ禍の長期化で、当協会会員の2割ほどが廃業に追い込まれました。稼働台数もずっと減っているはず。行政から「厳しくても、頑

公的支援が必要

運転代行は、3台ほどの仕事を就いた運転手たち

運転代行を営む会員の声

休みでも固定費が

三重・名張民商 斉藤 竜次さん(45)

緊急事態宣言・まん延防止等重点措置で飲食店の時短・休業が始まると、売り上げはコロナ前より8割落ち込みます。昨年10月12月、新規感染が落ち着いたときは回復しましたが、オミクロン株の流行で再び、元に戻りました。今回は、まん延防止等重点措置が解除されても人出が戻りません。コロナ前、週末は5台で稼働していましたが、現在は1台のみ。客の自費があります。何とか商売を続けられるだけの支援を望んでいます。

支援金で助かった

鹿児島・奄美民商 栄光秀さん(64)

コロナ禍で深刻な打撃を受けた酒類を提供する飲食店と並んで、運転代行は大きなダメージを受けました。飲食店が店を閉める、お客がいなくなるため、時

業界探訪 運転代行

が、すぐに戻ってくる見込みも立ちません。今後、収束に向かっても、深刻な人手不足に悩まされま

運転代行業者は、国の持続化給付金や一時・月次支援金、実質無利子・無担保融資など、使える制度を使い切っています。経営が回

料金の適正化を 一方で、この業界には構造的な問題もあります。タクシーのように、国や

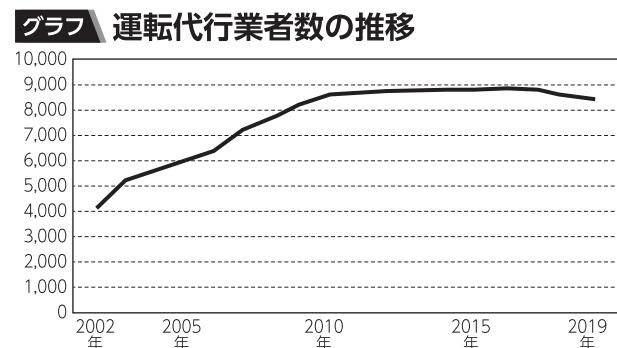


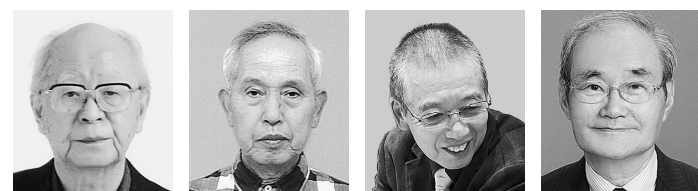
表 2019年の県別運転代行業者数(警察庁調べ)

1 沖縄	739	6 宮城	314	11 徳島	89
2 福岡	404	7 福島	304	12 香川	89
3 茨城	354	8 群馬	284	13 高松	28
4 熊本	343	9 千葉	278	14 愛媛	28
5 鹿児島	316	10 秋田	257	合計	8487

代行の適正料金は、最低でもタクシー料金の1.5倍は必要ですが、規模の大きいところほど原価ギリギリの価格設定を強いられて、事業継続に苦戦しています。さらに、運転代行は①酔

設定の差で、タクシーと競合するためには、料金適正化など争になることは、ほばないにすぎない規制強化も必要と考えています。車庫を借りなければいけない人は、その政の確かなインシアーフが求められています。

次週から 今日も商い日和



次週から新連載「今日も商い日和」知っておきたい日本の自然と災害。お 元気家地球環境・海洋部長。前日本気象予報士会会長。特に台風関係に詳しい。山下 紀夫(しもやま・のりお) 元鹿児島地方気象台長。軍士山頂での勤務経験もあり、天気相談所長も歴任。岡田 正実(おかだ・まさみ) 元地磁気観測所長。地震と海洋関係が専門で、津波についても詳しい。清野 政明(せいのみさあき) 元気象研究所地震火山研究部長。有珠山など多くの火山噴火を経験してきた。

随想



都鳥 伸也

ロシアがウクライナに侵襲した。ロシア国内のメディアは政権の支配下にあり、国民の多くがこの侵襲を『正義の戦争』と信じ込まされている。しかし、「ロシアの44都市で6日に反戦デモがあり、少なくとも2034人が拘束された」というニュースが聞こえてきた。スマホを使い、欧米で報じられる正しい情報

平和を望む意思表示

のツールとして今はインターネットがあります。(中略) そのとき、私たちは、それが平和を望んでいるのだ、ということを示す必要があります。戦争にかけるエネルギーやお金、時間を平和の方へ向けるべきだ、と確認することなのではないでしょうか。



こよみ大福帳
日本の句で商売繁盛
詩人 白井 明大

第万福(四十八・最終回) 胸いっぱい春の盛り

今年も桜の季節がやってきました。南からでも幻想の世界へ手を引いてくれます。きつと花見の宴というのを眺めるうちに、心がは、夢にうつろい、北国に春を告げる花で、今年はもう咲いたのでしょうか、それともこれからでしょうか。もう白いハンカチをふるように、ちらちらと咲くこぶしを見かけると、あまりの可愛さに愛おしくてたまらなくなりました。山には春の鳥がやってくる頃でしょう。今年もオオルリやコマドリを多く含む、賑やかな春の唄を聴けるかと思つと楽しみです。

― 春分 次候 桜始めて開く 3月26日・3月30日ごろ ―



題字・イラスト: 高橋香緒理